

## 世界 200 か国の血圧値 40 年間の動向を調査

血圧値の上昇は心臓血管病や慢性腎臓病の重要なリスク因子である。本研究では世界 200 か国における血圧値の動向と、高血圧症の有病率について調査した。

18 歳以上の成人の血圧を測定した 1,479 試験、総被験者数 1,910 万例のデータをもとに 1975~2015 年の世界の平均収縮期・拡張期血圧値と高血圧の有病率を推定した。高血圧症の定義としては、収縮期血圧 140mmHg 以上、拡張期血圧 90mmHg 以上とした。その結果、2015 年の年齢調整平均収縮期血圧は男性が 127.0mmHg、女性が 122.3 mmHg、年齢調整平均拡張期血圧は男性が 78.7mmHg、女性が 76.7mmHg であった。2015 年の世界の年齢調整高血圧症有病率は、男性が 24.1%、女性が 20.1% であった。この 40 年間に西欧・環太平洋の高所得国では平均収縮期・拡張期血圧値が大幅に低下し、これらの国のいくつかは、1975 年には血圧値が最も高かったが、2015 年には最も低くなっていた。収縮期血圧の低下が最も大きかったのは環太平洋の高所得国で、拡張期血圧では西欧の高所得国で最も大きかった。東・東南アジア、南アジア、オセアニア、サハラ以南のアフリカでは、平均血圧値の上昇がみられた。2015 年に最も血圧値が高かったのは、中央・東欧、サハラ以南のアフリカ、南アジアであった。高血圧症の有病率については、高所得国と中所得国の一部で低下傾向がみられたものの、その他の国では変化はみられなかった。この 40 年間で、高血圧症の人の数は 5 億 9,400 万人から 11 億 3,000 万人に増加し、低・中所得国で大幅に増加していた。世界の高血圧症の増加は、人口増加と高齢化による有病者の増加と、年齢別罹患率の低下による有病者の減少を総合した結果とみられる。

したがって、血圧高値の傾向は高所得国から低所得国へ移行していることが明らかとなった。ただし、南アジア、サハラ以南アフリカの低所得国では血圧高値の増加傾向はみられず、中央・東欧では血圧高値が継続していた。

出典 : Lancet. 2016 Nov 15; pii: S0140-6736(16)31919-5